

私の思い出

浜田 文也

釧路空襲時、私は米町二丁目、釧路神社の横にあった味噌醤油の工場の従業員であった。

空襲のあった早朝は釧路特有の霧の深い日で、私はまだ床についていた。

恐ろしいほどの高音の「雷」に驚いて飛び起きたら、それは雷ではなく敵機による空襲の音であった。

米町方面に被害はなかったが、後に高地に登り眺めたところ、北大通から東の街は一面「火の海」になっているのが見えた。

空襲の敵機は、「思う存分」に爆弾を投下したものと思われる。

空襲機が去った後、焼け跡整理のため在郷の軍人は出勤を命じられた。

私もその内の一人であった。

警察官とともに整理にはげんだが、防空壕などないところには残酷な死体が多かった。

一家族で男女の区別もつかない、憐れな死体もあった。

ある家で、馬が一頭焼け死に、頭が落ちていたものもあった。

思い起こせばこんなこともあった。

敵機は釧路川にも爆弾を投下したのか、川魚が多量に死に、岸に流れていた。

付近の市民が拾い上げたが、当時は塩もない時点で保存が出来ず全部捨てたという。

当時、市民がどれだけいたかは定かではないが、あの時は百九十二名もの尊い命が失われたという。

幸い生き延びた私は現在八十四才だが、当時の記憶を持っている方は何人いるだろうか。

空襲の敵機の名前は「グラマン」だったと思うが、恐ろしく速度の早い軍機で、釧路方面に向かっているとのラジオ放送があった後、あっという間に釧路の上空に来ていた。

私の工場は煙突が高かったので、グラマン機は軍の施設と見たのか爆弾を投下したが、大きな怪我もなくすみ、工場には横に大きな穴があいただけだった。